

地理的観点からみる鎌倉街道と東京周辺の街道の特徴について

1. 検証目的

多くの研究者が鎌倉街道について、歩いた**感覚**と鎌倉時代における**軍事的道路**としての役割から、他時代の街道に比べ、勾配が急であると考察されている。このことを**数理的に証明**することが研究の目的である。

2. 仮説・設定

仮説：鎌倉街道は他時代の街道に比べ、坂が多く、勾配も急である。また鎌倉街道を除き、時代を遡るほど街道の距離は短く、坂の数は多く、勾配も急である傾向にある。

設定：検証区間（検証街道）は以下

- 渋谷～二子玉川間（中道&大山街道(青山通り)）
- 大井町～丸子間（下道&古代東海道&中原街道）
- 日本橋～多摩川間（下道&東海道&中原街道）

検証観点：距離、平均勾配、坂の数、現在使用されている箇所（=不明箇所の有無）

< 坂の定義 >

勾配1°以上が継続的に続いているもの

名称付きの坂で平均勾配1度以上は存在するため適当。なお10m未満での起伏は坂として認めない。

3. 検証方法

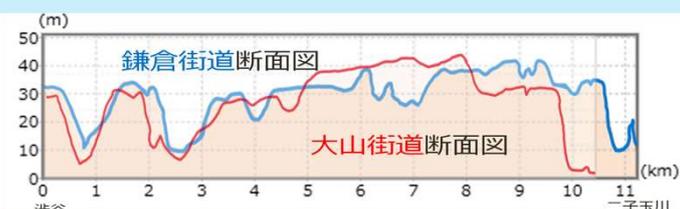
- ① 国土地理院（電子国土Web）で断面図を作成する
- ② 距離と標高差から勾配を計算
- ③ 計算結果をグラフ化
- ④ 勾配ごとに地図上に色分けし、坂の数を数える
- ⑤ 坂、勾配以外の観点で考察
- ⑥ 街道を歩き、アプリ（分度器）で勾配を計測

< 経路地図 >



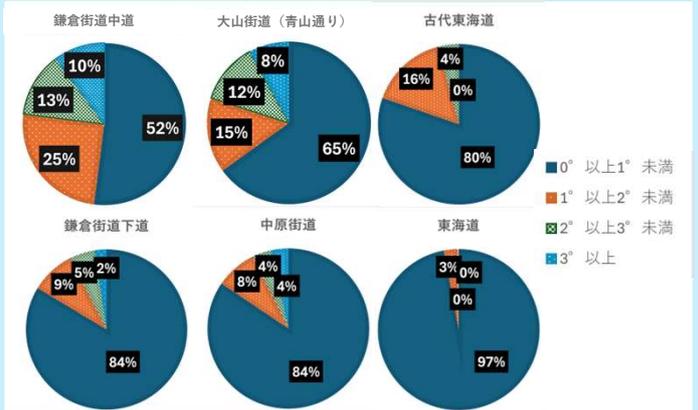
4. 結果・考察・結論

< 検証方法①について > (例) 渋谷～二子玉川間



断面図から鎌倉街道の方が凹凸が大きいことが確認できる。鎌倉街道は武蔵野台地の段丘と台地面を交互に通っている一方、大山街道は主に武蔵野台地上を通っていることが分かる。計算や計測に加え、**地理的特徴**も今回の結果が正しいことの裏付けとなる。

< 検証方法②③について >



< 検証方法②④⑤について >

街道の名前	敷設時代	距離	平均勾配	坂の数
鎌倉街道中道	鎌倉時代	11.21km	1.21°	14
大山街道	江戸時代	10.39km	1.02°	9
古代東海道	平安時代	(6.88km)	(0.93°)	(8)
鎌倉街道下道	鎌倉時代	19.45km (4.26km)	0.55° (0.50°)	11 (7)
中原街道	江戸時代	13.15km (5.05km)	0.98° (1.09°)	10 (6)
東海道	江戸時代	18.02km	0.22°	4

※ () のデータは大井町～多摩川間のデータを示す
鎌倉街道と古代東海道は不明箇所が散見される。江戸時代の街道は現在も全区間使用されている。
古代東海道と中原街道は大部分の経路が同じのため平均勾配が大きくなっていると考えられる。（なお鎌倉街道下道の支道は同一区間を通るため仮説には反しない。）鎌倉街道下道と東海道は埋立地や武蔵野台地の下を通っているため平均勾配が小さい。中道も下道も台地を部分的に通ることから、見晴らしの良い場所を確保するという鎌倉街道の軍事的道路としての性質が見られる。

< 検証方法⑥について >

(例) 大山街道の小坂付近の計測値：2.7°
この地点の計算値：2.67°
他箇所でも計算結果と計測結果はほぼ一致したため、計算結果の信憑性は高いとみなせる

『時代を遡るほど距離は長く、坂の数は多く、勾配も急である傾向がある。』

5. 今後の展望

古街道に経路不明箇所が存在することが研究の限界となっている。経路不明箇所は適宜対応しているが、一般化には危険性がはらむ。今回は東京南東部の街道での検証であったが、今後は東京西部の街道にも焦点を当てていきたい。

6. 参考文献

- 『武蔵武士の諸相』北条氏研究会 勉誠出版 2017.10
- 『埼玉地方史』埼玉地方史研究会 関東図書株式会社 2020.4
- 『地図でみる東日本の古代』島方 光一 平凡社 2012.10
- 『武蔵武士を巡る』北条氏研究会 勉誠出版 2025.3

7. 謝辞

本研究を進めるうえでご助言、指導頂いた永田先生、岩淵先生、小森准教授、川島優美子氏に心から御礼申し上げます。